

曹洞宗では、毎年十月五日の達磨さまのご命日に、^{だるまき}達磨忌という法要を行います。

皆さまご存じの達磨さまは、赤い体で両目が白い、選挙の際など願掛けに使われる縁起ものの達磨さんや、達磨市などで見かける起き上がりこぼし小法師のお姿が多いのではないのでしょうか。

達磨さまは、インドから中国へざぜん坐禅を伝えるという大切な役目を師匠ししょうから受け継ぎ、六十歳を過ぎてから中国へ「禅」を伝えたといわれています。中国に入り、後に少林寺拳法で有名になった、少林寺で坐禅を組み、弟子になるものが現れるのを待っていたといわれています。

九年目に、ぜひ弟子にと強い願いを持ったえか慧可という方が最初の弟子となり、達磨さまには全部で四人の弟子ができたといわれています。その四人の弟子は、それぞれ力量にあった達磨さまの教えを受け継ぎました。

その受け継いだ教えの内容は、人間の体に例えて、「皮肉骨髄」といわれています。つまり、達磨さまの教えの表面の部分…「皮」。内容の部分…「肉」。基本の部分…「骨」。そして最初の弟子であり、正式に達磨さまの教えを受け二代目となった慧可が、最も大切なもの…「髄」を受け継いだといわれています。

弟子が四人と聞くと、少ないと思われることでしょう。達磨さまの教えはとても難解であったそうです。しかし、その四人の弟子たちが教えを引き継ぎ広めたお蔭で、七百年後に日本へと禅の教えが伝わることとなるのです。

曹洞宗では、達磨さまから慧可へと正しい仏教が伝わったとして、その系統を保持しています。

さて今月は、横浜の鶴見にある^{だいほんざんそうじじ}大本山總持寺において、總持寺の二代目にあたりがさんしょうせきます峨山韶碩しの禅師のご遺徳を偲び、五十年ごとに行われる年回法要である「六百五十回大遠忌^{だいおんき}」が行われています。このような機会ですので、大本山總持寺へお参りされることをお勧めいたします。

法要のテーマは、「相承^{そうじょう}」といえます。「相承」とは「受け継ぎ伝えること」です。達磨さまの教えを受け継いだ弟子たちと同じように、みなさんも、大切な何かを受け継ぎ伝えることを、一つの目標としてみてはいかがでしょうか？

— 終 —